



無所属  
政策派

発行人 小林伸行  
住所 野比2-13-18  
Fax 050-3737-3872  
☎070-6640-3927  
✉info@kobayashinobuyuki.com  
Web www.kobayashinobuyuki.com

小林のぶゆき 検索

野比在住。昭和50年福島県生46歳。筑波大学卒。早稲田大学公共経営大学院修了。地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。政策秘書試験合格後、衆議院議員公設秘書を経て、2011年より横須賀市議。現在3期目。マニフェスト大賞でも最多受賞の政策派。野比小避難所運営委副委員長。NPO事務局長。

特集

## 教育、教育、そして教育。

よそからの「人集め」より、目の前の「人づくり」を。



特集

## 教育、教育、そして教育。よそからの「人集め」より、目の前の「人づくり」を。

### ■教育が、横須賀市の最大の事業

コロナ禍の中、私は「四十の手習い」ということで学び直しをし、早稲田大学で公共経営修士(MPA)を修了しました。指導教官は片山善博・元総務相・元知事。私が、退官前の最後の生徒となりました。

片山教授は、私が議員になった当時からずっと、教育行政が大事だと説いていました。当初は「地方自治体の業務は福祉から道路まで幅広いのになぜ教育ばかり力説するのだろうか?」と疑問に思っていました。しかし今回、師事する中で腹に落ちました。

やはり、教育こそ地方自治体の最大の事業です。

### ■思えば、自分も教育ばかり

振り返れば私自身も数ある行政分野の中で教育を取り上げる機会が多かったことに気付きました。

- 中学校給食の導入
- 部活動の地域移行
- 中学校選択制の廃止
- 中高一貫校計画への反対
- 学校の電力調達変更(年間約4000万円削減)
- 小学校の統廃合方法の議論喚起
- 教育委員の人選と仕事ぶり改革
- 学習旅行費用の保護者負担軽減
- 学校プールの再編



- 制服の廃止&ジャージへの移行
- 「へんな校則ランキング」で問題のあぶり出し
- 学力・学習状況調査の結果分析 ……

数えあげればキリがない位で、多くの課題をいち早く提起してきたと自負しています。その結果、中学校給食、電力調達、選択制廃止、学習旅行見直し、校則改善など、この11年間でいくつもの実績を残すことができました。

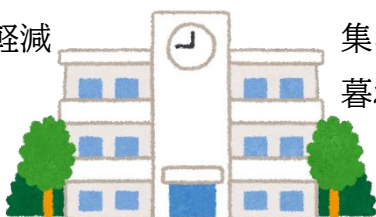
目について問題は何でも取り組んできましたが、教育分野が多かったのは、それだけ教育が重要で課題が多いことの表れなのかもしれません。

### ■「人づくり」より「人集め」ばかり熱心?

小泉純一郎・元首相は、2001年の就任演説で「米百俵」を引用しました。戦争で荒廃した長岡藩に送られてきた米を配るのではなく歯を食いしばって学校設立に投資した結果、多くの人材を生み長岡が再興した故事です。英ブレア元首相も所信表明で「我が国の課題は3つ。教育、教育、そして教育」と述べました。国も横須賀市も一緒です。長い目では「人づくり」こそが、国を築き町を興す礎のはず。

しかし、本市ではこの間、短期的な定住促進や、集客・観光に偏重した「横須賀再興プラン」に明け暮れた陰で、教育現場が極めて危機的な状況です。

裏面に続く→





### 学力学習状況調査の全国比

## ■学力は向上していない

まずは、全国と比べた本市の学力状況を見てみましょう。

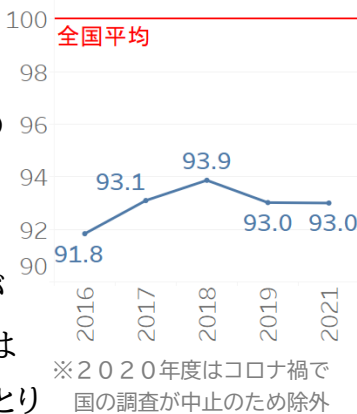
学力は都市化や平均所得に大きく影響されるため、本市が全国平均よりも低いこと自体は問題ではない。問題は一人ひとりの生徒がしっかり力をつけているかどうか。そして、その結果として本市全体で上がったか下がったかではないでしょうか。

市は一部の学年・教科の結果をつまみ食いして「学力が向上した」と喧伝しますが、対象の全学年・全教科を私がデータ分析した結果、横ばいでした。

市は一部の学年・教科の結果をつまみ食いして「学力が向上した」と喧伝しますが、対象の全学年・全教科を私がデータ分析した結果、横ばいでした。

## ■疲弊する学校現場。

各種対策をしているのに、なぜ学力が上がらないのか？ 私は教員の過重負担が原因と見ています。

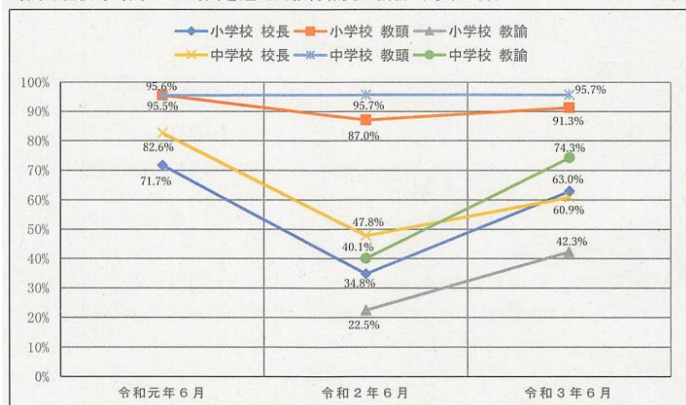


教員のみなさんは責任感が強いので「子どもたちのためなら」と自分を犠牲にしてでも仕事を引き受けがちです。その結果、中学校教員の74%が残業月45時間以上。30%が過労死ラインの残業月80時間以上。月100時間以上も14%います。コロナ禍前はもっと劣悪でした。ところが市トップ(教育長)は、これを残業ではなく「時間外在校等時間」と呼び、教員は単に学校にただけで仕事をしていたとは限らないと主張するのです。私が「過労死したらどうするのか？」と問うと教育長は「基本的に、まあ訴えられるのは最終的には県ですから」と失言する始末です。これでは現場の教員も報われない。

## ■今こそ教育のマネジメントを！

教員が疲れ切って授業準備もできない状態ではいい教育はできません。必要なのは、地域主権の気概を持って、教育品質をマネジメントすること。他の事業を削ってでも市独自で教育に投資し、学校に市職員を送り込んで教員の雑務を引き取る。これが急務です。具体的には、部活や地域対応を市や民間に移行するなどの「経営」をすべきです。「国や県が対応してくれない」と言い訳ばかりの無責任な教育長に任せておけません。このまちの未来を左右するのは、みなさんが選んだ議員です。

時間外在校等時間が45時間を超えた教育職員の割合（毎年6月）



市教委作成の二〇二二年十二月七日公開資料の一部。令和二年はコロナ禍で休校中の数値



## 応援してください！

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- ご自宅への看板設置
- 学生インターン

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金は頂いていません。



### 小林のぶゆきの基本政策

**みえる** 誰が何をどう決めてるのか ぜんぜん見えない……。

市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

**わかる** 難しい説明をされても よくわからない……。

いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

**かわる** これまで何も変わらなかった。 どうせ変わらない……。

現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください **必ず私、小林伸行が自分で目を通します！**

